

【別添】

令和7年度 最上地域農林水産業若者賞受賞者の概要

(五十音順・敬称略)

かなうち ゆうすけ
■叶内 勇輔 氏（新庄市）

規格外品として廃棄せざるを得なかったトマトを活用した6次産業化に取り組み、経営基盤の強化を実現している。令和4年から役員に就任した産地直売所の運営組織においては、イベント企画や朝市の出展を通じ地産地消を推進することで、地域経済の活性化に貢献している。平成28年に山形県青年農業士に認定されてからは、若手生産者同士の連携を図り、地域の新規就農者の交流を深めるなど、地域の中心的な存在となっている。また、県立新庄神室産業高校の体験学習や東北農林専門職大学の学生の臨地実務実習の受入れなどを実施し、次世代のリーダーとして地域農業の振興に大きく貢献している。

たかはし こうだい
■高橋 広大 氏（鮭川村）

林業が主要産業の一つである鮭川村において、家族経営で特用林産物であるエノキタケ生産をしている。エノキタケの周年生産は、中山間地域である村の経済や安定した雇用機会の創出に貢献するとともに、県内産のスギオガ粉といった地域資源を活用することで県内林業を持続可能なものにしている。また、令和3年からは「プロフェッショナルきのこ山形」に参画、総合支庁の森林整備課と連携しながら、県内各地のイベントへの出店を通して林産業の魅力を発信するだけでなく、「木の子の日給食」の実施や村内小学生の総合学習の受入れなど、地域への愛着や産業への関心を育むための活動を積極的に行っている。